

a93107

2型糖尿病におけるエンパグリフロジン投与前後の臨床管理指標と血管指標(AVI, API)の検討

¹埼玉医科大学総合医療センター 内分泌・糖尿病内科大竹 啓之¹, 的場 玲恵¹, 坂下 杏奈¹, 山崎 悠理子¹, 梅原 敏弘¹, 阿部 義美¹, 森田 智子¹, 秋山 義隆¹, 皆川 真哉¹, 矢澤 麻佐子¹, Sellami-Mnif Houda¹, 和田 誠基¹, 中島 啓¹, 大村 栄治¹, 松田 昌文¹

選定用抄録本文

【目的】2型糖尿病においては、大血管障害による動脈硬化の進展が臨床的な課題の1つである。近年血圧測定時に動脈硬化を手軽に検査できる医用電子血圧計Pasesa®(Prevent Arterial Sclerosis and Enjoy Successful Aging, 開発:産業技術総合研究所、理化学研究所;特定保守管理医療機器 医療機器承認番号 22300BZX00424000)が臨床で用いることができるようになった。簡易に動脈硬化指標が測定できるため有用性が期待されている。2016年SGLT-2阻害薬投与により2型糖尿病患者における心血管イベントを有意に抑制すると報告された。今回2型糖尿病患者においてSGLT-2阻害薬(エンパグリフロジン)投与前と投与1ヶ月後の臨床管理指標とPasesa®を用いた血管指標AVI(Arterial Velocity pulse Index)とAPI(Arterial Pressure volume Index)の変化について比較検討した。

【方法】当院で加療中の2型糖尿病患者にエンパグリフロジンを投与した群10例(男性/女性:7/3人、年齢:51.9±13歳、糖尿病の罹病期間:7.1±5.2年、HbA1c:7.2±1.0%、BMI:27.6±4.2 kg/m²、血圧:138±9.9/83±13mmHg)に対して投与前と投与後1ヶ月の臨床管理指標と血管指標AVIとAPIを後方視的に比較検討した。

【結果】エンパグリフロジン投与1ヶ月後、HbA1cは6.9±0.8%で改善傾向ではあった有意差は認めなかった。血圧は126±12/78±13mmHgと拡張期血圧は有意な低下を認めなかったが、収縮期血圧は12±11 mmHg有意に低下した(P=0.007)。AVIとAPIに関しては、AVI(23.4±5.8から19.6±5.7)とAPI(30.2±7.8から25.2±4.5)と共に有意な改善を認めた(P=0.007, P=0.03)。

【考察】

2型糖尿病患者においてエンパグリフロジン投与後に動脈硬化の指標であるAVIとAPIの両方が有意に改善し、動脈硬化性疾患の予防につながることが示唆された。エンパグリフロジンによる血管に対する有益な効果は、AVIとAPIの両方で同定された。今回血糖は有意な改善は認めなかったことから、血管予防効果においてはエンパグリフロジンの有用性を反映したデータで考えられた。同時にさらなるPasesa®モニターの有用性の検討が必要であると考えられた。

印刷用抄録本文

【目的】2型糖尿病患者でエンパグリフロジン(EMPA)投与前後にPasesa®を用いた血管指標AVI(Arterial Velocity pulse Index)とAPI(Arterial Pressure volume Index)の変化を比較検討した。

【方法】EMPA投与10例で治療前後の血管指標AVIとAPIを測定し後方視的に比較検討をした。

【結果】投与後HbA1cは7.2%から6.9%と改善したが有意差を認めなかった。血圧は138±9.9/83±13mmHgから収縮期血圧が12±11 mmHg有意に低下した(P=0.007)。AVI(23.4±5.8から19.6±5.7)とAPI(30.2±7.8から25.2±4.5)は共に有意な改善を認めた(P=0.007, P=0.03)。

【考察】EMPA投与後に血管指標AVIとAPI共に有意に改善し動脈硬化性疾患の予防が示唆された。また血糖は有意な改善は認めなかったことから、血管予防効果は血糖改善効果によるものだけでなく